

認知症カフェ開設支援について

認知症地域支援推進員の働きかけ

九州・沖縄地区認知症地域支援推進員活動研究大会

テーマ「認知症地域支援推進員活動の現状と今後の向上のために」

テーマ別 活動発表会

福岡県うきは市役所 保健課
地域包括支援センター

福岡県うきは市

“白壁の町並み”



●人口 30,431人
●高齢化率 32.3%.

(H.29.4.30現在)

糖尿病

1%

高血
圧

4%

心疾
患

4%

骨折・骨
粗鬆症

12%

その他
20%

認知症
28%

脳血管
疾患
16%

筋骨格
系疾患

15%

うきは市要介護の原因疾患 (平成26年10月1日現在)

一号二号被保険者主治医意見書調べ



“フルーツ王国うきは”

認知症地域支援推進員の配置状況

認知症地域支援推進員

配置場所

うきは市役所 保健課 地域包括支援センター

業務

地域包括支援センター業務

認知症地域支援推進員業務



開設支援



カフェを通しての最終（長期）目標は「地域の福祉力をあげる事」とした。





スタート 社会資源探し

地域や事業所等に向けて発信

1. 情報収集や認知症の理解を深める
目的で推進員のPR
2. 認知症カフェをやってみたいという
言葉を待つ

「地域へ向けて新たな事業を考えていますか？」

既存資源の再資源化・新規資源の開発



自発的な気持ちを大切に

グループホーム施設長

「認知症カフェをやってみたいと思っていた」
という発言あり。(11月下旬)



推進員



「さすが、認知症の専門です。開設に向けて
協力します。一緒に立ち上げましょう。」

(エンパワメントアプローチ)

自発的な気持ちを大切にす

1月、施設長



「3月に開設します。皆と話し合って3月に決めました。年間計画にいれました。」 ← 自らが自分たちの意見で決定日時は地域を巻き込み地域の声を聞き決定した。（我が事）

（自分たちも立ち上げにかかわったという意識）



不安な気持ちを理解する

地域を巻き込む 医療機関を巻き込む

協力者を探し、つないでいく

同じ志同士が同じベクトルの方向を
向くと強い力を発揮する。

一緒にやりましょう お手伝いします。



気をつけた所

**肯定から入る。 波長合わせをする。
一緒にやっていく(支えていく)というスタンス
やらされている感・させられている感
にならないように。**

「こうして下さい、ああしてください」 ⇒ 言わない

使った言葉

- 出来る
- 絶対大丈夫
- ないものを作るって大変だけど、誰かがしないと生まれない。その最初の人になってほしい。
- できる限りの協力をします。安心してください。
- 待っている人がいます。必要とされています。
- お金は出せないけれど、体はあります。
- どうにかかります。
- 私がついています。
- うきはの「大谷るみ子さん」になって下さい。



情報提供

- 書籍紹介やニュース記事の情報提供
(カフェの効果など)
- 高齢者(徘徊)模擬訓練の開催(3月)
- 認知症カフェの視察に参加(実感、イメージ化)
- グループホーム部会へ 次年度研修として
認知症カフェの視察の提案を行う。
- 認知症カフェ交流会の参加
- 協力者を探しつないでいく
- 積極的な打ち合わせ
- 助成事業の情報収集



認知症カフェ 広報

- うきは市広報誌・ホームページ（広報係と連携）
- 社会福祉協議会 広報誌 フェイスブック
- 医師会、薬剤師会など職能団体へ案内
- 居宅事業所や介護サービス事業所等へ案内
- 民生委員会議等 会議の場にて
- 市民センター、図書館などにポスター
- 相談窓口や家庭訪問
- 電話にてカフェのお誘い
- 認知症カフェマップの作成・活用
- 認知症べんりちょうの作成・活用

かかさずに
「認知症地域支援推進員」
「認知症カフェ」の名前を
明記し、地域住民へ名称の
すりこみを行っていった。

誰もが安心して過ごせる場所としてオープン



認知症の人、家族の方などが
気軽に話し合える場です

認知症カフェ

「認知症のことを話し合ってみたい」「勉強して支えたい」そんな思いをかなえる場所です。

「認知症カフェ」は誰でも立ち寄れる場所、そして気になる認知症の事などを気軽に語り合える場所として全国的に広がっています。今回、うきは市で初めて「オレンジカフェ三春」を開催します。

◎認知症カフェとは
地域で認知症の人や家族、周りの人を支えていく場所の一つとして、「認知症カフェ」があります。

- 開催場所 グループホーム三春 (浮羽町三春1-9822-1)
- 参加費 100円
- 問合せ
・グループホーム三春
TEL77-1300(担当:宮崎・梅野)
- ・地域包括支援センター
TEL75-4105(担当:足立)

3月26日(土)
13時～15時(出入り自由)

(認知症カフェ)
オレンジカフェ 三春

「認知症カフェ」と明記し、「推進員もPRする」

忙しい毎日から離れ、自然を満喫しながら心と体の疲れを癒しましょう。誰でも気軽に立ち寄りください。飲み物とお茶菓子でお待ちしています。

認知症の人を支える地域づくり

うきは市では、認知症の人への効果的な支援体制の取組などの目的で地域包括支援センターに認知症地域支援推進員の配置を行っています。医療、介護、及び地域の支援機能とのパイプ役として、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続ける事を支援していきます。

具体的には、

①認知症の容態に応じて、必要な医療や介護等のサービスを受けられるために行う関係機関との連絡体制の構築

②事業の企画・調整

③認知症の人や家族等への相談支援などの役割を担っています。

そして社会全体で認知症の人びとを支えていく地域作りを目指していきます。

成功体験

やれば出来るんだ

⇒ 自信 ⇒ 自立

ご清聴ありがとうございました。

認知症カフェの様子です
薬剤師さんミニレクチャーの時間です

成功体験

**やれば出来るんだ
⇒ 自信 ⇒ 自立**

**認知症カフェの様子です。
GHが地域に開かれた存在になり相談機能が充実
従業員「施設長が変わった」
カフェが立ち上がった後、
次のステップとして推進員はカフェの内容
についても気にかけていた方が良い。**

このような貴重な意見も頂きます

「うきはの広報の方に

認知症カフェでしたか、認知症のよりあいの場が各地で開設されているのを紹介されているのを目にしますがネーミングにすごく抵抗があります。高齢の母に進めたりしていますが（予防）ネーミングが直接すぎて。既に認知症を患っていらっしゃる方、家族の方にも配慮が必要だと思います。ネーミングの変更を希望致します。」

認知症公開講座の開催報告

3月23日に浮羽医師会と共催で、「認知症をより良く生きる社会をつくろう」認知症になった‘私たち’からのメッセージというテーマで公開講座を開催しました。内容は、

- ①大牟田市ライフサポート研修会代表の大谷るみ子氏の講演
 - ②若年性認知症当事者さんへのインタビュー形式によるメッセージ
 - ③サクソ奏者、深町 宏氏によるリラクゼーションタイム サクソ演奏
- の三部構成で行いました。

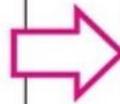


今回は、大谷氏の講演内容を主にお知らせします。講演は、オールドカルチャー（古い考え方）から**当事者の意見を取り入れた新しい考え方「ニューカルチャーへのまちづくり」**についてありました。

オールドカルチャー（古い考え方）は、「他人事」の考え方で、これではよりよい社会にはならず、ニューカルチャー（新しい考え方）、我が事の社会として考えていくことが大切と講演されました。

オールドカルチャー(古い考え方)他人事

- 1 認知症だから仕方がない。
- 2 認知症になると何もわからなくなる。
- 3 認知症は本人より周囲が大変だ。
- 4 病気や症状ばかりに着目している。
- 5 家族や一部が抱え込み、負担が増大。
- 6 行政がすればいい、病院、施設に任せとけばいい。



ニューカルチャー(新しい考え方)我が事

- 1 認知症でも治療やケアの効果が期待できる。
- 2 認知症でも感情や心身の力が豊かに残っている。
- 3 **本人、中心、本人理解が基本。**
- 4 病気や症状ではなく、認知症の「人」に着目する。
- 5 専門職と地域がチームで関わる。
- 6 地域全体で見守る。

認知症は、何らかの病気が原因となっておこる脳の病変であり、本人が一番困っています。「認知症」という目線ではなく「**その人、〇〇さん**」を、「機能低下」ではなく「**不自由さ**」を、「無くなったもの」ではなく、「**あるもの**」を見ていく目線が大切だというお話がありました。

また、大牟田市での認知症カフェを始められた際、名前を「認知症カフェ」ではなく「物忘れ予防カフェ」の名称にしようとした話題もありました。しかし、皆の話し合いで**名前を変える事自体が「偏見」になると気づかれ、また名前を元にもどし「認知症カフェ」と明記し運営されています。**

講演会参加者からは、「いつでも当事者に耳を傾け意見を聞くことが大事だという事に改めて気が付きました」等の感想を頂きました。

参加して頂いた多くの皆様、ありがとうございました。次回は認知症当事者のインタビュー形式によるメッセージについてご紹介します。

●問合せ 地域包括支援センター Tel.75-4105

**うきは市 二カ所目の認知症カフェが開設
平成29年3月**

「はじまるカフェ咸生閣」

吉井温泉 咸生閣

平成29年3月 開設



- **認知症カフェに市の補助が開始される
(平成29年4月より)**

うきは市 認知症カフェマップ



現在、うきは市には二か所の「認知症カフェ」が開設されています。

カフェの名称	オレンジカフェ 三春 [▽]	はじまるカフェ 成生園 [▽]
日時	毎月 第4土曜日 13:00~	毎月 第3水曜日 10:00~2時間程度
場所	グループホーム三春 別館 多目的ホール うきは市浮羽町三春1982-1 ☎77-1300	吉井温泉 成生園 大広間 うきは市吉井町千年14-1 ☎090-9599-1396 (福外)
参加費	100円 (お菓子と飲み物付き)	300円 (お菓子と飲み物付き)
主な内容	カフェ・相談・ミニレクチャー・季節により食事会や演奏会	カフェ・相談・ミニレクチャー・カラオケ入浴 (費別途料金)

日によって開催日等が変更する事もあります。詳細はお問い合わせください。

認知症カフェって？

認知症カフェは、認知症の人や、家族、地域の方、医療や介護の専門職など誰でも参加出来る、くつろいだ雰囲気の中で気軽にお話出来る場所です。
どんな方でも気軽に参加でき、認知症の人やその家族が安心して過ごせる居場所でもあります。話し合いや情報交換、相談等も行っています。
ゆったりとした雰囲気の中、優しいBGMをバックに参加者皆で一緒にお茶を飲んだり、お菓子を食べながらお喋りを楽しめます。
認知症でも住み慣れた家や街で暮らし続ける地域づくりを目指して、最近では全国的に広がってきています。

うきは市では認知症の人の意志が尊重され、出来る限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることが出来るよう、「認知症をより良く生きる社会づくり」を目指しています。
また、認知症の人やその家族の視点を重視し、効果的な支援体制の取り組み等の目的で「認知症地域支援推進員」を配置しています。



うきは市では認知症カフェを運営する事業者等へ補助を行っています (平成29年度より)

目標を 実現するまでの道のり

認知症地域支援
推進員
教を押し切る

↓NG↓
こうして下さい



協力者を探し
つばいやく
反応を見ながらしど待つ
考える時間を作る
待つ、焦らない

地域の福祉力向上
社会資源の効果的活用



“自分達(我々)の事
アクションを起こさなければいけない”
という意識に。
自らが(自分の)意見で決定



安心して過ごせる
何倍も頑張る

自立

自信

成功体験

ゴールが最終ゴール

他者から
必要とされている
(情緒的欲求)

一緒にやりましょう
それをお手伝いします



このサイクルの
くり返し

やりたい
自発的な
気持ち

前定のはいは
やりほしい
自立してほしい

私がやら
やれるかも
実現欲求

これは自信
これは自己肯定感
うまいかも
自己効力感

地域を巻きこむ
(医療機関も) ⇒ 強い力になる

(既存の)
資源探し

既存資源の再資源化
新規資源の開発
スタート地点

地域を社会資源の
1つとしてとらえる

大切に
不安
自信はない
出来るかは
失敗しないかは
踏みこみ切れない

大丈夫です
出来ます

認知症カギ
形が出来あがり
目に見える化
出来た

長付き

眠っている資源多い
きっと身近にある
目を覚まさせる事

うきは市地域包括支援センター
認知症地域支援推進員 2017.5.

認知症地域支援推進員

推進員活動を通して

- いろいろな社会資源がきつと身近にある。
- 眠っている資源がある。目を覚まさせる事
- 推進員も職場や地域に助けられ支えられている。協力者が必ずいる。
- 地域に出向き、日頃から地域とのつながりを大切に。

